

大歳まちづくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和7年度)

■地域の情報

地域人口	13,936人	自治会数	29
世帯数	7,088世帯	自治会加入率	54.0%

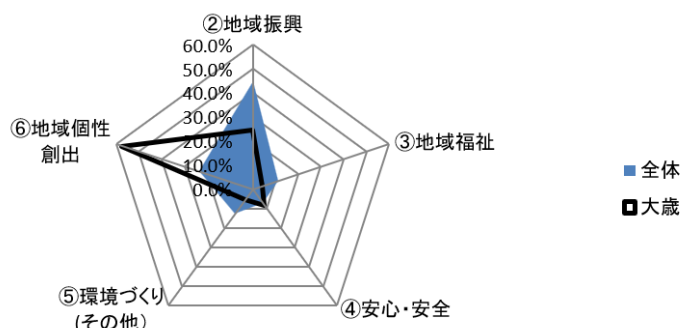
※数値は、令和8年4月1日のもの

■決算状況

交付金配分枠	9,568,000 円
交付金決算額	9,008,517 円
その他収入	12,259 円
交付金決算額／配分額	94.2%

各分野の決算

①協議会運営	5,461,032 円
②地域振興	869,162 円
③地域福祉	150,023 円
④安心・安全	294,580 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	193,378 円
⑥地域個性創出	2,052,601 円
決算総額	9,020,776 円



■地域づくりの活動方針(テーマ)

基本方針 「みんなでつくろう、明るく住みよいおおとしを」をテーマに地域づくりを展開する。

■総括

基本方針に基づき、各種事業を実施した。コロナ禍で活動が停滞したまま今日に至っており、従前の事業を踏襲するにとどまった。最近では、各関係団体の構成員の高齢化や若年世帯の自治会離れという問題が顕在化しており、まちづくりを推進する上で新しい視点を持ち、リーダーとなりうる人材の確保・育成が不可欠であることから、まちづくり活動部会員や自治会長を含めて、地域の担い手が活動しやすい推進体制の見直しや、住民が生き生きと生活できる環境の整備に努めていく必要がある。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長1名、事務員2名の事務局人件費及び事務費
② 地域振興	各自治会の活性化、地域情報の収集と発信、あいさつ運動の推進
③ 地域福祉	高齢者支援体制の充実、子ども会活動の活性化
④ 安心・安全	生活安全(防犯)対策の充実、交通安全対策の充実、災害安全対策の充実、見守り体制の充実
⑤ 環境づくり	環境美化活動の推進
⑥ 地域個性創出	自治会内の交流促進、地域内の交流促進、住民総参加による地域の活性化、ふるさと大歳の伝承、花いっぱいの大歳づくり、地域資源の活用、交流列車おおとし(大歳駅)の活用

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自治会内の交流促進	決算額	825,961円
	目的	1自治会1事業をはじめとしたふれあい事業を実施することにより、地域での交流を深める。		
	実施内容	①1自治会1事業、②大歳地区一斉清掃、③三世代交流夏休みラジオ体操の実施		
	実施時期	①通年、②10月第3日曜日(10月19日)③夏休み		
	参加人数	①11自治会(559人)、②28自治会(2,815人)、③12自治会(4,247人)		
	成果	自治会離れが懸念される中、「1自治会1事業」の実施や地区内一斉清掃活動等に多くの住民が参加し、さまざまな機会を通じて住民相互の交流が図られた。		
	評価	コロナが5類へ移行したものの、自治会活動は全体として低調である一方、交流事業への参加を通じ、地域活動への関心の高まりが一部で見られた。		
	今後に向けて	令和8年度に自治会連合会が設立されることから、自治会間の連携強化および合同事業の推進を図る。あわせて、関連事業が未実施の自治会に対し、自治会連合会等を通じて説明を行い、事業への取り組みを促進する。		
②	事業名	地域内の交流促進	決算額	243,979円
	目的	地域内の交流促進を図り、地域リーダーの発掘・育成に努める。		
	実施内容	三世代交流事業として、①カローリング大会、②囲碁将棋大会、③グラウンドゴルフ大会、④ザ・チャレンジ大歳お100姓さんを実施。		
	実施時期	①5月18日、②11月16日、③7月27日、④6月6日(田植え)、10月7日(稲刈り)		
	参加人数	①61人、②18人、③22人、④延べ280人		
	成果	三世代交流事業としてカローリング大会や健康づくり・絆・交流の集い等を実施し、地域の担い手の発掘に努めた。また、地域内で活躍する人材や事業所の魅力を発信する機会ともなった。		
	評価	三世代交流が促進され、各事業が地域行事として定着しつつある。一方で、参加者に関する情報収集が十分とは言えず、人材発掘につなげるための体制づくりが課題である。		
	今後に向けて	今後は、参加者への積極的な声掛け等を通じて情報を収集し、人材発掘につなげる必要がある。引き続き事業を継続実施し、世代間交流を通じて地域内のつながりの強化と交流の促進を図る。		
③	事業名	交通安全対策の充実	決算額	213,260円
	目的	小学児童の登下校時の交通安全対策を充実する。また、交差点改良の検討を進める。		
	実施内容	新入学児童を対象に交通安全下敷きを配布。反射鏡の設置及び道路標示助成。		
	実施時期	入学に合わせ新入学児に下敷きを配布。また、通年、反射鏡等助成を実施。		
	参加人数	116人		
	成果	新しく開発された団地内の道路標示の整備(一ヶ所)や出入り口に反射鏡(三ヶ所)を設置し交通安全の確保に努めた。		
	評価	新入学児童に対する交通安全啓発を実施するとともに、「ゾーン30」のぼり旗の掲出や反射鏡設置助成を行い、登下校時の安全対策の充実が図られた。		
	今後に向けて	引き続き、交通安全対策の助成制度の周知を図るとともに、自転車の交通マナー向上等について啓発を進めていく。併せて、小学生の安全確保の観点から、関係機関と連携し、信号機の設置や交差点改良について要望を行う。		